

- 東海市は、名古屋市近郊にあり森林面積が少なく、愛知用水等を通じて水が供給されており、水源地の森林の恩恵を大きく受けている。水源地にあたる長野県木祖村の協力のもと、森林環境譲与税を活用し水源地の森林整備、木材利用を促進していく。
- 令和5年度においては、森林環境譲与税を活用して、市内小中学校3校の下駄箱を長野県産桧材を使用し制作された下駄箱に更新をした。

事業内容

小学校下駄箱の更新事業

- ・長野県木祖村が、長野県産桧材を使用して作成している下駄箱を購入し、市内小中学校3校の下駄箱を更新。

【事業費】13,956千円（うち譲与税12,210円）

【実績】木材使用量10.648m³

取組の背景

- ・子ども達に木材の温かみを感じてもらおうと共に、老朽化が進んでいる下駄箱を計画的に更新するため。



（更新した下駄箱の様子）

工夫・留意した点

- ・児童生徒が日常的に使用する下駄箱の設置に活用すると共に、設置場所や児童生徒に合わせた木材の温かさと香りの溢れるオーダーメイドの下駄箱としている。

取組の効果

子ども達からの声

- ・一人ひとりの下駄箱のサイズが大きくなったので、出し入れがしやすくなった。
- ・木の匂いが心地よく、朝から気持ちがいい。
- ・昇降口が明るく、きれいになったのでうれしい。
- ・新しい木の下駄箱になったので、きれいに使用したい。

基礎データ

①令和5年度譲与額：12,210千円		②私有林人工林面積（※1）：6ha	
③林野率（※1）：2.0%	④人口（※2）：113,787人		⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より